ことばは漢字と意味で覚える

第一原則を実行すれば、当然、第二原則も実行せざるをえなくなります。しかし、そんな理由ばかりでなく、もっと積極的な理由があるのです。

「みぎ」「ひだり」ということばは、算数用語で、一年生の算数で学びます。しかし、一年生には、なかなか理解できにくいことばです。能力の低い子どもだと、四、五年生でもよくまちがえます。

しかし、これを漢字で学ぶと、ずっと覚えやすくなることがわかりました。

「右」・「左」の「 」は手のしるしです。もとの形は、「 ( )」で、手の形を表わしたものです。ですから、食事のとき、食べ物を口へ運ぶ手が「右」で、工作のとき、じょうぎ（工はじょうぎの形）を持つ手が「左」なのです。

こうして、ことばを、漢字と、意味と、この三つを結びつけて学習すれば、ことばだけを学習するよりも、ずっと覚えやすくなるのです。これについては、波多野博士は、

「どこの国でも、音声だけで覚えられているわけではなく、語形をたよりにしてことばを覚えている」

といって文字の価値を認めておられますが、表意文字である漢字が、ことばの学習に役だつことは、それ以上だと考えられることは当然です。